

小つぎ

第3集

山崎茂男編



山崎茂男
印



空大盤常
畫空大盤常



私「もし私が1級とったら、どうする」

父「うれしくて、さかだちするな……」

福生珠算学校にて

ふ
っ
さ
っ
子

第三集

山崎茂男編

まえがき

月刊「ふっさつ子」の二百四十号（かぞえ二十年）を記念して、「ふっさつ子・第一集」を
発刊したのは、今から五年前の、昭和四十四年五月だった。その二年後に、戦後の福生の社会
教育活動のあれこれをまとめた、「第二集」を、各方面の方々のご協力を得て発刊した。

そして、更に二年後に「第三集」をと準備を進めた。しかし、間もなく、月刊「ふっさつ
子」が三百号を数えるので、その期に「第三集」をと、これを延ばしてきた。この七月、予定
どおりに、月刊は三百号に到達できた。そして、それを記念する「第三集」が、この小誌であ
る。

思えば、あくまでそのガラでない私が、こうしたことを続けてこられたのは、長い年月、福
生珠算学校に理解、協力してくれてきた、福生、またはその周辺地区の皆様。そして、「ふっ
さつ子」に、手取り足とりして指導援助してくれた人たちの、ご好意の集積である。その間、
ただ右往左往したただけであった自分を、最高に恵まれた者、とひたすらに感謝の念あるばかり

だ。

ところでちかごろ、月刊「ふっさつ子」の読者の間に、すこぶる好評を得ているが、毎号の一頁を飾っている「子どもの意見」である。本当にいまの子どもは、心の中のものをサラッと表記するのがうまい。「第一集」も、その点で読者各位に喜ばれた。また、東京、朝日、読売、毎日（掲載順）の各新聞紙上でも高く評価を受け、大きく報道された。

こんどのものは、「第一集」に収録した、その後のものを集めてみた。つたないまどめ方で申し訳ないのだが、これも一つの「ふるさと流」としてお許し願いたい。ただし、私自身一父親としての立場から、各頁を読みかえしてみても、大人として大いにうなづける、教えられる内容のものであることを、信じている。また、それにとまなう大人の話題を、数編とり入れた。これらもまた、貴重な「ふっさつ子」ならではの記録である。

ここに登場者各位に、脱帽最敬礼して、この「第三集」刊行の記としたい。

昭和四十九年七月三十一日

山崎 茂男

目次

親と子	1
家で	45
しつけ	79
学校で	121
社 会	165
座談会	
おれとおやじが、ぶつかっている事情(15)	子どものしつけ(106)
昭和初期の「ふっさつ子」を語る(225)	
むかしばなし	
狐の嫁入り(77)	むかしは多摩川で泳げたのだ(119)
と「ぬきなし」(164)	土方ことば(246)
	厄病神